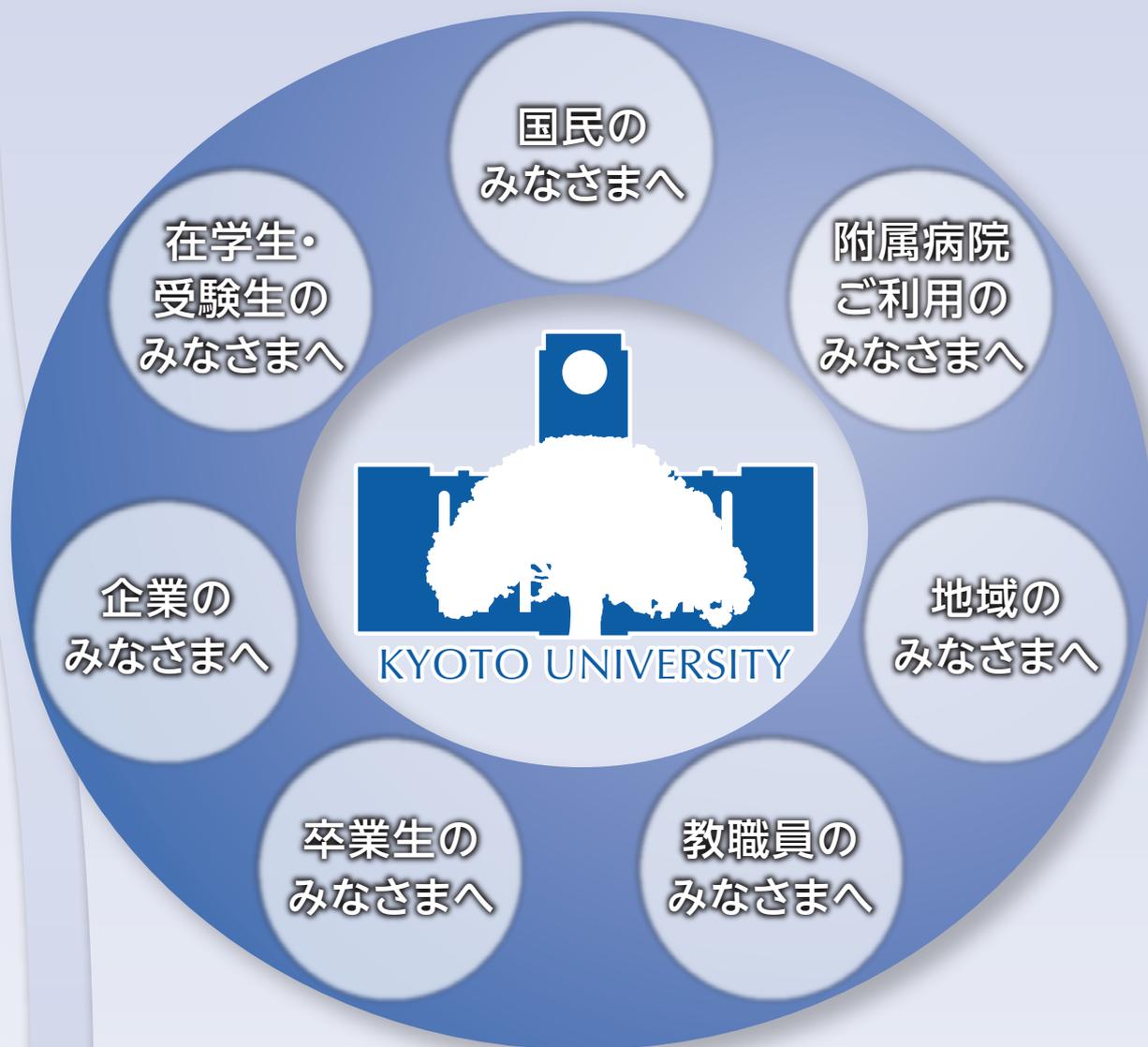


京都大学を支えてくださる みなさまへ



京都大学は、
自由の学風を継承・発展させつつ多角的な課題に挑戦し、
地球社会の調和ある共存に貢献することを目的として運営を行っています。
京都大学は、これからも広く国民のみなさまに支えられた大学として、
国民や社会に対する説明責任(アカウンタビリティ)を果たし、
社会に開かれた大学を目指していきます。

●国民のみなさまへ

●国民のみなさまにご負担いただいているコスト

国立大学法人会計基準では、国民のみなさまが各国立大学法人の運営に対してどれだけの資金をご負担していただいているのかを明らかにするため、「国立大学法人等業務実施コスト計算書」(26ページ参照)の作成を義務づけています。

国民のみなさまには、本計算書に計上されている本学の業務実施コスト約789億円に、国等からの受託研究(共同研究を含む)および受託事業の約65億円と科学研究費補助金等の約137億円を合わせた総額 約991億円をご負担いただいています。

日本人の人口(約1億2,570万人)により換算した国民1人当たりの負担額は788円となります。法人化当初と比較すると58

円減少しています。(平成16事業年度国民1人当たりの負担額は846円)

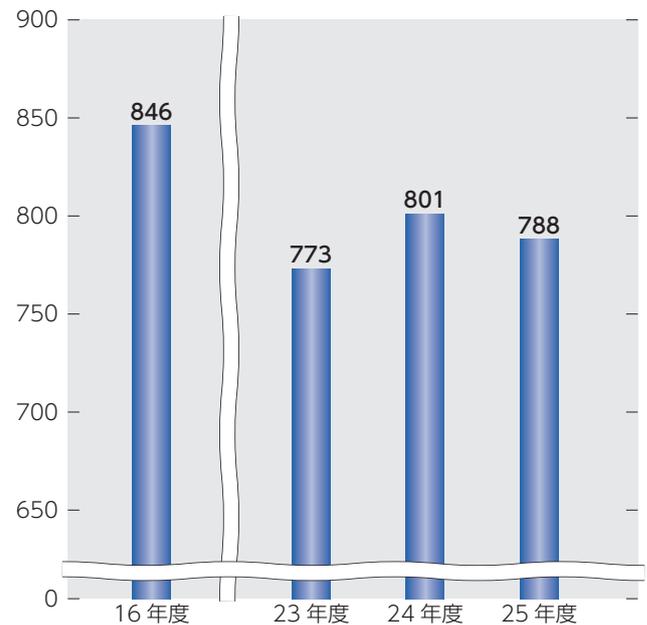
国民1人当たりの負担額 788円
(業務実施コストに対する負担額 628円)

$$=(\text{業務実施コスト}(789\text{億円})+\text{受託研究等}\cdot\text{受託事業}(65\text{億円})+\text{科研費等}(137\text{億円}))\div\text{人口}1\text{億}2,570\text{万人}$$

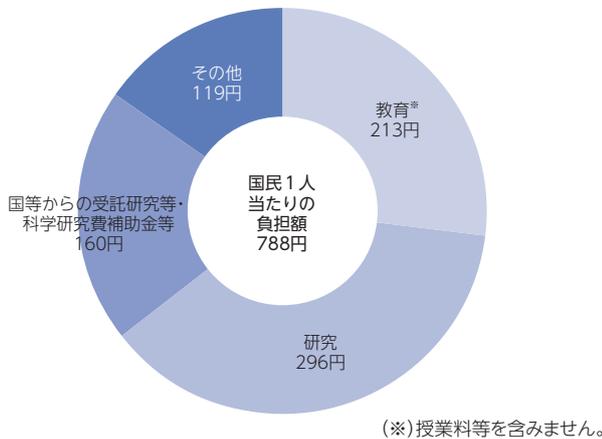
(人口:平成25年10月1日現在推計人口 総務省統計局)

■国民1人当たりの負担額の推移

(単位:円)



負担額の内訳は下図のようになります



●環境への取り組み

本学は、平成18年度から環境報告書を作成し公表しています。本報告書では、遠隔地にあるキャンパスを含めた広範囲の環境データを公開しているほか、毎年ステークホルダー委員会を開催し、在学生や地域のみなさまをはじめとする多くの方々の意見を取り入れるよう努めています。

本報告書に掲載しているエネルギー使用量や廃棄物排出量などの環境データは、環境負荷低減の指標となるだけでなく、大学の財務改善にも役立っています。

平成25年度は、サステナブルキャンパス構築に向けてサステナブルキャンパス推進室を設置し、国内外機関とのネットワーク構築や優れた取組などの情報収集を行うとともに、国公私立大学等との連携を図るため設立されたサステナブルキャンパス推進協議会に参画しました。また、平成26年3月には本学で国際シンポジウムを開催し、先進事例の紹介やパネルディスカッション等を行いました。



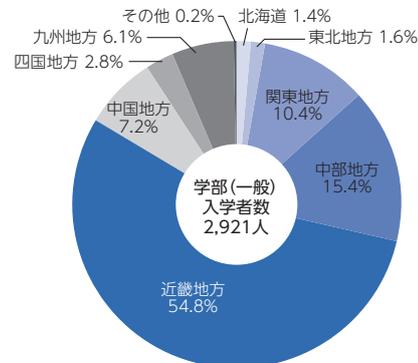
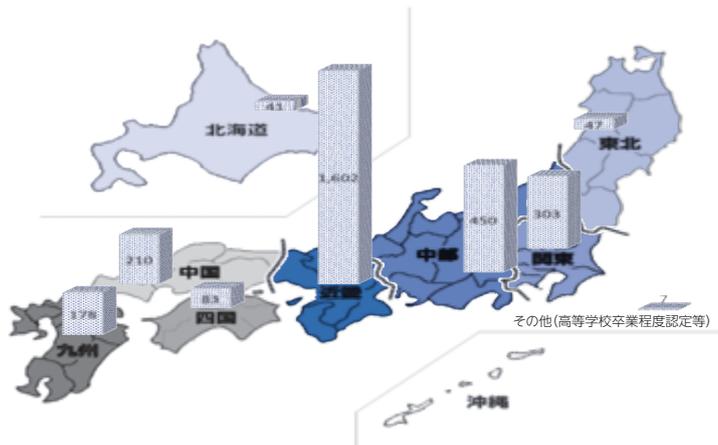
京都大学環境報告書2013(平成25年9月発行)
(<http://www.esho.kyoto-u.ac.jp/?p=1163>)



「サステナブルキャンパス構築」国際シンポジウムの様子

●平成25年度出身高等学校等所在地別の学部一般入学者数(単位:人)

本学の平成25年度出身高等学校等所在地別の学部一般入学者は下図のとおりで、全国から学生が集まっています。



入学者出身高等学校等所在地構成比率

●edXのコンソーシアムに参加

本学は、平成25年5月に日本の大学で初めて「edX」に「KyotoUx」という名称で参加しました。平成26年4月から授業提供を開始しています。

「edX」とは、非営利機関「xコンソーシアム」の一つで、ハーバード大学とマサチューセッツ工科大学(MIT)が共同で設立し、世界トップクラスの大学で構成されています。オンライン授業とキャンパス授業の互換性の実現に焦点をあて、画期的な方法

論、学習、ゲームのような体験、最先端の研究などをオープンソースのプラットフォーム上で提供します。また、受講者の世界的なコミュニティを形成すべく、すべての年齢・地位・所得の学生に感動的で意識を変革するような知識を提供しています。

edX京都大学URL

<https://www.edx.org/school/kyotoux/allcourses>

●京都大学における各種の基金

本学では、卒業生、教職員、個人のみならず企業・団体から、学術研究や教育の充実・発展を目的として、「京都大学基金」へのご支援をお願いしております。

「京都大学基金」にいただきましたご厚志は、学生支援や研究支援、社会貢献等に活用してまいります。右表にありますように、本学には教育研究活動等に資する目的のためさまざまな基金を設けています。継続的な寄付の方法として、従来のクレジットカード決済に加えて、口座振替が利用できるようになりました。

また、みなさまよりご提供いただいた書籍類(書籍・DVD・CDなど)の買取金額が全額、本学への寄付となる「本de募金」の募集も行っており、さらにこの度、卒業生や教職員、大学をご支援くださる全てのみなさまにご愛用いただけます「京都大学カード」も発行いたしました。

これまでご支援をいただきました方々への顕彰として、「感謝の集い」を開催するとともに、百周年時計台記念館に「京都大学基金寄付者銘板」も設置しております。

今後も、みなさまからのご支援をよろしく願いたします。

京都大学の基金

名称	目的等
京都大学基金	深く真理を追求し、世界をリードする先端的、独創的な教育研究活動を行い、学問の府・京都から研究成果や知的財産を創出し、日本並びに国際社会の発展・貢献に資するためのものです。
iPS細胞研究基金	iPS細胞研究の成果を一日も早く社会に還元するため、基礎から応用研究まで実施できる研究環境を整備し、研究の加速化を図るためのものです。
思修館基金	幅広い知識と深い専門性、強い意志と倫理性を併せ持つ次世代のリーダーを育成し、世界の活躍の場へ送り出すことを推進するためのものです。
こころの未来基金	「こころ」のはたらきの解明をめざし、こころとからだ、こころとこころ、こころと生き方の3領域を研究のフィールドとして、多様な連携研究プロジェクトを推進するためのものです。
湯川・朝永生誕百年記念募金事業	自然科学や人文・社会科学などの基礎科学に携わる、特に創造的・独創的な成果を挙げた若手研究者を対象として、表彰と賞金の授与などの記念事業を実施するためのものです。
旧制第三高等学校基金	旧制第三高等学校(三高)関係の歴史的に貴重な資料の収集、整理、保存、展示等の事業や調査研究を行い、三高の資料と精神を永らく後世へと継承するためのものです。

京都大学の基金URL

<http://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/>

本de募金URL

<http://www.hon-de-bokin.jp/>

京都大学カードURL

<http://www.kucard.kyoto-u.ac.jp/>

● 在学生・受験生のみなさまへ

● 教育関係経費

学生の教育に要する教育関係経費は約452億円です。内訳は経常費用約392億円、教育用資産支出額約60億円です。これらは卓越した知の継承と優れた研究能力や高度の専門知識をもつ人材の育成という本学の目標を達成するために活用しています。また、学生1人当たりに換算すると、約199万円となり、前年度より約3万円増加しています。

なお、教育関係経費約452億円は、学生納付金収入と入学生料・授業料免除額の合計額約138億円(学生1人当たり約61万円)ではまかないきれないため、運営費交付金等約314億円(学生1人当たり約138万円)を充当しています。このほか、大学院学生に対する活動に一部研究資金が使用されています。

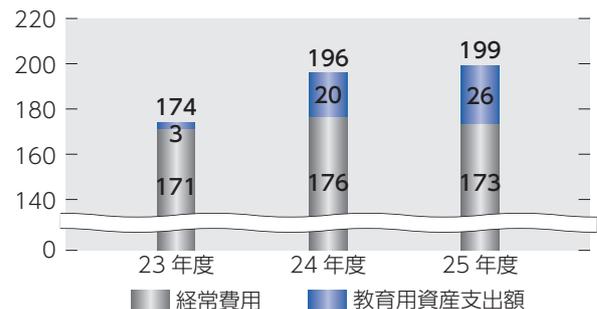
学生1人当たりの教育関係経費 199万円
(うち 学生納付金等61万円、運営費交付金収益等138万円)

$$= (\text{経常費用 (39,196百万円)} + \text{教育用資産支出額 (6,020百万円)}) \div \text{学生数 (22,677人)}$$

※年度比較については33ページ参照

【内 訳】 上記のうち、経常費用 173万円
= 経常費用 (39,196百万円) / 学生数 (22,677人)
上記のうち、教育用資産支出額 26万円
= 教育用資産支出額 (6,020百万円) / 学生数 (22,677人)

■ 学生1人当たりの教育関係経費の推移 (単位:万円)



● 国際化を目指した取り組み

国際戦略「2x by 2020」に掲げた「世界に通用する国際力豊かな人材の育成」のために、「学生の海外留学生数の増加」及び「国際社会に通用する語学力の涵養」の達成を目指し多様な留学プログラムを実施しています。平成25年度においては、「ジョン万プログラム(学生用)」によりオックスフォード大学へ70人、ケンブリッジ大学へ5人、プリンストン大学へ3人等、計107人の学生を派遣しました。

京都大学ジョン万プログラム(学生用) URL

<http://www.john-man.rp.kyoto-u.ac.jp/student/index.html>



オックスフォード大学特別サマースクールプログラムでの学習の様子

● 高大連携を進める取り組み

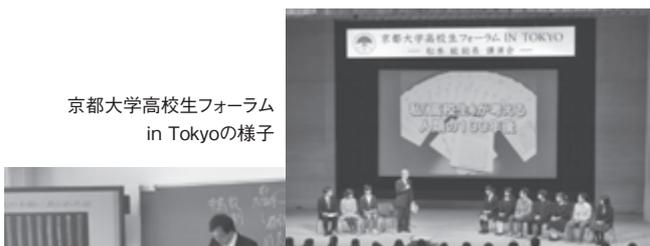
本学では、大学および高等学校における教育の課題に対し、連携して教育および研究の充実、発展に寄与することを目的として、右表のとおり近畿地方各府県の教育委員会等と連携協定を結びました。今後は、各府県の連携指定校を対象とした高大連携事業を実施する予定です。また首都圏では、東京都教育委員会との共催で最先端の研究成果等の講演を行う「京都大学高校生フォーラム in Tokyo-松本紘 総長 講演会-」を開催しました。

平成25年度から本学の博士後期課程学生・ポスドクターを高等学校へ派遣する出前授業や本学を訪問する高校生にオープン授業を行う「学びコーディネーター」を実施しました。大学院学生にとっては貴重な教育経験になり、高等学校や高校生にも好評でした。

平成28年度入試から更に高等学校との接続・連携を緊密なものとする「高大接続」型の入学者選抜である「京大特色入試」を全学部で実施いたします。

連携協定一覧

大阪府教育委員会	京都市教育委員会
滋賀県教育委員会	和歌山県教育委員会
兵庫県教育委員会	奈良県(教育分野の連携)
京都府教育委員会	三重県教育委員会



学びコーディネーターによる授業の様子

●学生への支援

平成25年8月に学生総合支援センターを設置し、カウンセリング、キャリアサポート、障害学生支援の連携を強め、学生支援機能の一層の強化・充実を図ってきました。

また、本学では、入学料や授業料を免除する制度を設けています。平成25事業年度においては入学料約0.4億円(277人)、授業料約13.5億円(6,449人)、総額約13.9億円を免除しました。この中には、東日本大震災により被災した学生を対象とした特別枠が含まれています。

奨学金制度としては、従来からの本学独自の奨学金に、平成25年度から新たに、学資負担者の死亡等による経済的な緊急時に修学又は生活を支援する一時金支給制度を導入しました。

また、福利厚生施設の整備として、北部生協会館の耐震改修工事を完了し、現在は吉田食堂および南部生協会館についても増改築を検討しています。

課外活動施設の整備としては、吉田グラウンドや、総合体育

館の環境整備等が完了し、学生集会所の建て替えも進行しています。博士後期課程学生およびポストドクター等の大学院修了者への研究活動の場の開拓・情報提供については、京都府・京都市の支援事業と連動して交流会を開催し、新たに大阪府との連携による支援事業として「大阪優良企業説明会&面談会」および「OB・OG社長交流会」を開催し、情報提供を行っています。

授業料免除割合

13.6%

=授業料免除額(1,346百万円) / 授業料収益(9,905百万円)

※年度比較については33ページ参照

学生総合支援センター URL

<http://www.gssc.kyoto-u.ac.jp/>

入学料免除・授業料免除・奨学金URL

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education/campus/tuition>

●学生納付金

本学の学生納付金単価は右表のとおりです。平成25年5月1日現在の在籍学生数は学部13,421人、大学院9,256人で、うち平成25年度の入学人数は学部3,025人、大学院3,474人です。平成25事業年度の学生納付金収入は、総額で約124億円であり、本学収入全体の約7.1%を占めています。

学生納付金単価

(単位:円)

区分	授業料	入学料	検定料
学部	535,800	282,000	17,000
大学院	535,800	282,000	30,000 <small>(後期課程にのみ徴収)</small>
法科大学院	804,000	282,000	30,000
転学、編入学、再入学	535,800	282,000	30,000

●TA・RAの制度

大学院学生が行った教育・研究補助業務の対価を支給する制度があります。

TA (ティーチング・アシスタント) : 大学院学生が指導教員のもとで学部学生などに対する助言や実験、実習、演習などの教育補助業務を行うことにより、大学院学生に教育者としてのトレーニングを積む機会を与えることを目的としています。

RA (リサーチ・アシスタント) : 大学院博士後期課程に在籍する学生を研究補助者として参画させることにより、研究活動の効果的な推進と、学生の研究遂行能力の育成を図ることを目的としています。

平成25事業年度はTA、RAに対し、約7.2億円を支給しました。

●図書

本学の蔵書数は和書・洋書を合わせて約679万冊、資産計上額は約337億円です。平成25年度は、蔵書数が約10万冊増加しました。

附属図書館では、平成25年度において、本学の教育理念である「対話を根幹とした自学自習」の場として「ラーニング・コモンズ」を整備しました。このエリアでは、本学の学生がグループで対話しながら、能動的に学修できる「学びの実験場」となることが期待されています。

また、さまざまな分野の大学院学生スタッフが図書館の利用方法や学習に関する相談に応えるための学習サポートデスクを設置しました。

学生1人当たりの図書

149万円(299冊)

=図書(33,686百万円)(679万冊) / 学生数(22,677人)

※年度比較については33ページ参照



ラーニング・コモンズ

● 附属病院ご利用のみなさまへ

● 医学部附属病院の財務内容

平成25事業年度の附属病院収益は約332億円で、医学部附属病院の業務収益(約417億円)の約80%を占めています。

業務損益では、約14億円の利益が計上されていますが、この利益のほとんどは、さまざまな会計制度上の理由等により生じた資金の裏付けのない帳簿上の利益(29ページ参照)です。

実質的に使用することのできるキャッシュ(現金)ベースでは、近年、国からの運営費交付金が縮減の一途をたどるなど、非常に厳しい財務環境下にありますが、医療・研究・教育のいずれにおいても、広く社会に貢献し続けられるよう、日々、病院経営に邁進しています。

■ 患者数 (単位:人)

区分	23年度	24年度	25年度	増減率
入院	368,403	356,990	352,463	△1.3%
外来	679,155	681,766	689,209	1.1%
合計	1,047,558	1,038,756	1,041,672	0.3%

※上記患者数は医学部附属病院と保健診療所を合わせたものです。

■ 医薬品費及び診療材料費比率

医薬品費及び診療材料費比率 34.4%

=医薬品費及び診療材料費(11,426百万円)
 /附属病院収益(33,227百万円)
 ※年度比較については33ページ参照

■ 附属病院セグメント情報

(単位:百万円)

区分	24年度	25年度	増減
教育経費	68	42	△26
研究経費	1,483	1,455	△28
診療経費	20,337	21,336	999
受託研究費	1,417	1,343	△74
受託事業費	69	71	2
人件費	14,955	15,326	371
一般管理費	321	315	△6
財務費用	545	444	△101
雑損	0	1	1
業務費用(計)	39,195	40,333	1,138
運営費交付金収益	4,881	4,167	△714
附属病院収益	32,469	33,227	758
受託研究等収益	1,443	1,327	△116
受託事業等収益	73	69	△4
寄附金収益	798	802	4
財務収益	-	-	0
その他	1,920	2,117	197
業務収益(計)	41,584	41,709	125
業務損益	2,389	1,376	△1,013

■ 附属病院収入

(単位:百万円)

区分	23年度	24年度	25年度	増減率
附属病院収入	30,603	32,199	33,633	4.5%

■ 医薬品及び診療材料(期末たな卸)比率

医薬品及び診療材料(期末たな卸)比率 1.7%

=医薬品及び診療材料(572百万円)
 /附属病院収益(33,227百万円)
 ※年度比較については33ページ参照

● 平成25年度の取り組み

■ 診療体制の整備および患者サービスの向上

医学部附属病院では、診療体制の整備および患者サービスの向上に積極的に取り組んでいます。

平成25年度は、医員・医師クラーク・看護補助者等の増員を行い、診療体制の充実を図りました。さらに、集中治療部(ICU)やハイブリッド手術室2室の整備事業にも着手し、質の高い医療を提供できる環境整備を順次進めています。また、院内の患者さん向けのインターネットサービスを導入する等、患者サービスの向上にも取り組んでいます。



次世代ハイブリッド手術室(MRI室)全景

■ 総合高度先端医療病棟の整備



総合高度先端医療病棟の完成イメージ図

平成27年度の開院を目指して新病棟の建設を平成24年度から開始しています。

新病棟では、分散している病床を集約し、診療機能の拡充を図り、より高度で先端的な医療の提供を目指します。

また、臓器別・疾患別に病床を再配置し、医師・看護師等の人材を効率的に活用することによって、より手厚い治療、看護の充実を実現します。

■先進医療の推進

本院は、高度な移植医療の実施や多くの先進医療の推進に取り組んでおり、特に、生体肝移植は国際的な診療拠点となっています。また、難治性の糖尿病の治療としての膵島移植にも積極的に取り組んでおり、平成25年10月には国内初の脳死膵島移植を行いました。

また、泌尿器科では、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いて、前立腺がん患者さんの身体への負担が少ない手術を保険適用で行っています。今後は、他の診療科でも胃がん・肺がん等への適用拡大のため臨床研究を進め、先進医療として申請する予定です。

■高度な移植医療

(単位:件)

区分	23年度	24年度	25年度
肝移植	79	51	47
肺移植	19	22	27

■臨床研究実施体制の強化



ISO 15189:2012 認定書授与式

■先進医療(厚生労働大臣が定める「評価療養」の1つです。)

(単位:件)

先進医療技術名	実施診療科	25年度
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	眼科	17
腹腔鏡下子宮体がん根治手術	産科・婦人科	4
重症低血糖発作に伴うインスリン依存性糖尿病に対する心停止ドナーからの膵島移植	肝胆膵・移植外科	1
術後のホルモン療法およびS-1内服投与の併用療法	乳腺外科・がん薬物治療科	49
ペムトレキセド静脈内投与およびシスプラチン静脈内投与の併用療法	呼吸器内科	8
術前のホルモン療法およびゾレドロン酸投与の併用療法	乳腺外科・がん薬物治療科	7
食道がんの根治的治療がなされた後の難治性の良性食道狭窄に対する生分解性ステント留置術	消化器内科・がん薬物治療科	1
ラジオ波焼灼システムを用いた腹腔鏡補助下肝切除術	肝胆膵・移植外科	1

本院では、全国の病院に先駆けて、平成26年3月に、臨床検査室に特化した国際規格であるISO 15189:2012の認定を取得しました。

また、本院は、平成24年に厚生労働省から「臨床研究中核病院」に選定され、現在、臨床研究を推進させるネットワーク構築のため、複数の大学・大学病院と包括的な協定の締結を進めています。互いの臨床研究を推進し、相互に連携・協力しながら、成果の普及を促進することにより、我が国の臨床研究の発展に尽力しています。今後も、海外治験やiPS細胞研究所との連携を強化していきます。

■次世代ハイブリッド手術室の稼働について

平成25年11月に国内で初となる次世代型ハイブリッド手術室を設置し、稼働を始めました。

本システムは、ナビゲーションシステムにより、高解像度の画像を術中に確認することができるもので、治療困難な疾病や複雑な病変に対して安全性の高い治療が可能となり、患者さんにかかる負担も大幅に減らすことができます。



次世代ハイブリッド手術室(アンギオ室)全景

■ブータン王国への医師および看護師の派遣について



第一次ブータン派遣隊の医師・看護師

平成25年10月にブータン王国保健省およびブータン王立医科大学と医師交流等を定めた協定を締結しました。その協定に基づき、平成25年10月から医師2名、看護師2名による第1次派遣隊をブータンへ派遣し、現地で医療支援を行っています。

今後も本事業を継続し、国際医療への貢献および支援を行っていきます。

● 企業のみなさまへ

● 卓越した知の活用に向けた体制強化と取り組み

本学は、研究成果を知的財産化し、その活用を促進することや、海外の大学、企業、政府系機関、技術移転機関との国際的な産官学連携活動を推進すること等を目標としています。

本学の産官学連携を統括する産官学連携本部は、「国家プロジェクト部門」、「共同研究部門」、「知財・ライセンス化部門」、「法務部門」の4部門で編成される組織で、各部門では研究の内容や規模に応じたさまざまな制度を備えています。産官学連携の

推進や知的財産の確保と活用、ベンチャーの育成・支援等の全学的な推進支援業務を実施するとともに、学内外の関連組織と連携・協力し、本学が保有する知的資産の効果的・効率的な社会還元を図っています。

産官学連携本部URL

<http://www.saci.kyoto-u.ac.jp/>

● 新たな産官学連携事業の推進

平成25年度は、文部科学省の「革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM)」の12拠点の一つとして、本学の「活力ある生涯のためのLast 5X イノベーション」拠点が採択されました。本プログラムは、「しなやかほっこり社会の実現」を目指して、人と人とのつながり、安心、健康を実現するための技術や製品開発を行う長期プログラムです。産官学連携の場として、40社以上の企業と京都工芸繊維大学および京都府・京都市が参画し、専門分野と業種を超えて、垂直・水平連携した研究開発を行います。

活力ある生涯のためのLast 5X イノベーション拠点URL

<http://www.coi.kyoto-u.ac.jp/>

また、国際的な産官学連携活動を推進するため、産官学連携欧州事務所(英国)を拠点として、欧州各国の先端大学および国際企業とのI-U=U-I活動を積極的に行っています。平成25年度は、I-U=U-I活動を通じて紹介を受けた国際企業であるBASF(ドイツ)、メルク(ドイツ)、Volvo(スウェーデン)、ロールスロイス(英国)、ネスレ(スイス)、サノフィ(フランス)等への技術紹介活動を実施し、総括契約あるいは大型の共同研究契約に向けた折衝を積極的に展開しました。

※I-U=U-I活動・・・海外大学と連携することで、相互の連携企業との関係を構築する活動



「活力ある生涯のためのLast 5X イノベーション拠点」キックオフシンポジウムの様子



ブリストル大学との産学連携活動及び技術移転に関するセッションの様子

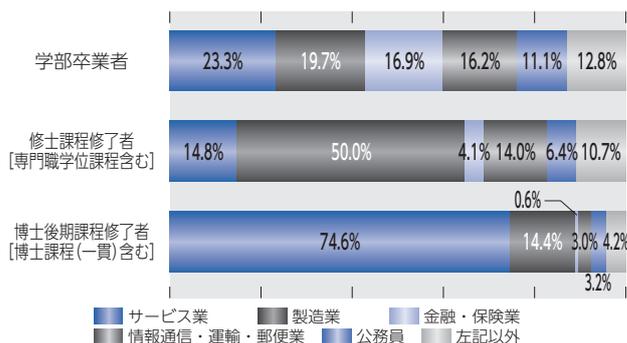
● 卒業者・修了者の就職状況

平成25年度の卒業者・修了者数と企業等への就職者数は下表のとおりです。就職先は「平成25年度卒業者・修了者就職状況(産業別)」にみられるとおり多岐にわたり、幅広い分野で活躍しています。この他、修士課程や博士課程への進学者も多数います。

(単位:人)

区分	卒業者・修了者数	うち就職者数
学部	2,894	966 (33.4%)
修士課程	2,183	1,558 (71.4%)
博士後期課程	760	547 (72.0%)

■ 平成25年度卒業者・修了者就職状況(産業別)



●外部資金の受入状況等

平成23～25事業年度の外部資金受入額および受入件数の推移は、下のグラフのとおりです。

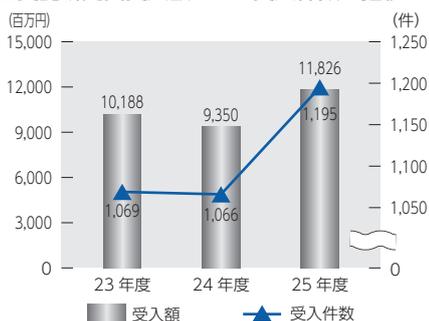
本学では、文部科学省「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」事業により、平成23年度から、高度な専門知識・経験を有し、本学の研究者を支援するとともに協同で業務の推進に取り組むリサーチ・アドミニストレータ(URA)を採用し、研究支援体制の強化に取り組んでいます。

URAが所属するKURA(京都大学学術研究支援室)では、競争的資金の獲得や研究成果の社会還元に向け、研究者とともに研究活動の企画・マネジメント、研究成果活用促進を行っており、研究者の研究活動の活性化や社会への情報発信等を推進しています。

KURA (京都大学学術研究支援室) URL

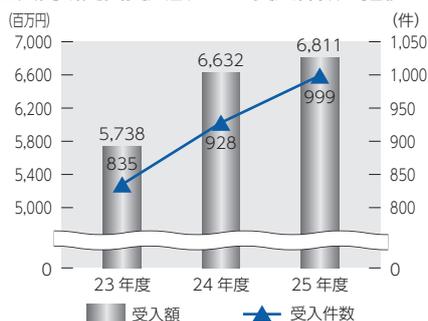
<http://www.kura.kyoto-u.ac.jp/>

■受託研究費受入額および受入件数の推移

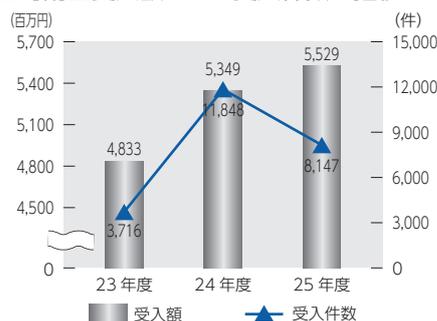


※受入額および受入件数は、国・地方からの受入を除いています。

■共同研究費受入額および受入件数の推移



■寄附金受入額および受入件数の推移



●特許等

平成23～25事業年度の特許権等収入額および件数の推移、特許出願数および取得数の推移、特許保有件数分野別内訳は、下のグラフのとおりです。

本学では、ひとつでも多くの研究成果を企業のみなさまにご活用いただき、「研究成果の特許出願→企業による実施→研究者等への利益還元→新たな知財の創出」という知的創造サイクル

ルを有効に回すことができるよう、移転可能な特許(技術シーズ)を紹介しています。

京都大学発明のご紹介(技術移転可能な特許) URL

http://www.saci.kyoto-u.ac.jp/static/page_id_106.htm

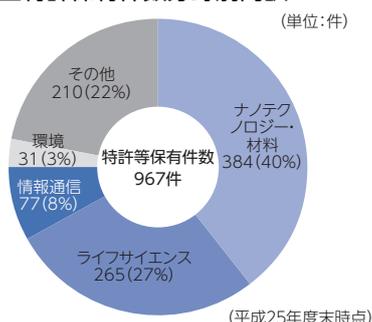
■特許権等収入額および件数の推移



■特許出願数および取得数の推移



■特許保有件数分野別内訳



本学が保有する特許の一例

発明の名称	内容
ホスホン酸ジエステル誘導体およびその製造方法(他3件)	GGT阻害活性を持つ化合物が皮膚細胞のコラーゲン等のタンパク質産生を促し、肌のシワや弾力、保水力の改善機能を持つ。化粧品素材として配合。
アミロイドβのターン構造を認識する抗体	アルツハイマー病の原因とされるアミロイドβのターン型構造を特異的に認識する抗体。共同出願企業から研究用試薬として販売。
核初期化因子(他多数)	人工多能性幹細胞(iPS細胞)の作成法・培養法・特定の細胞への分化誘導法等の一連の発明。創薬・再生医療等の研究に全世界で使われている。
ケーソン防波堤のカウンタウエイトブロック工法	直立防波堤を粘り強くする港内側の補強工法。製品中央の孔に中詰材として石を投入し、抵抗力を発揮する。共同出願企業で資材として販売。
耐震構法、耐震構造体および耐震家屋	既存の柱と柱の間に角材(間伐材)を充填し壁をつくり耐震性を向上させる工法。共同出願の社団法人を通じ多くの建築企業で採用されている。

● 地域のみなさまへ

● 公開施設等

本学では、みなさまに本学の活動や研究成果に身近に触れていただく機会を提供できるよう、さまざまな公開施設を設けています。

和歌山県にある白浜水族館では、紀伊半島南部に生息する海の生物約500種を常時展示し、その多様性を紹介するほか、研究者等による解説ツアーや体験学習等の各種イベントを開催しています。

総合博物館では、約260万点の学術標本資料を収蔵し常設展示を行うほか、企画展・特別展、「夏休み学習教室 体験EXPO」、「子ども博物館」等のイベントを通して、みなさまに本学の研究活動を紹介しています。

このほか、附属図書館や大学文書館でも、京都大学百周年時計台記念館1階歴史展示室において、随時企画展を開催しています。

また、本学には全国各地に多数の教育研究施設があり、それぞれの地域で「京都大学の窓」として親しまれています。これらの施設が一定期間に集中して施設見学会や講演会、体験実験、自然観察会等の公開イベントを実施する「京大ウィークス」は、毎年多くの方からご好評いただいております。平成25年度は、21施設で行ったイベントに延べ5,815名の参加がありました。

京大ウィークスURL

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education/open/weeks.htm>

● 生涯学習の機会の提供

本学では、広くみなさまにもご参加いただける公開授業・公開講座やイベントを実施しています。

また、各研究科・研究所でも、特色を生かした公開講座や施設公開、小・中学生、高校生を対象とした体験学習などを行い、み

主な公開授業・公開講座等

名称	概要	26年度開催時期
春秋講義	学内外の人と本学の知的資源の共有を図るため、年に2回開催される公開講義	春季：4月9日、16日、23日 秋季：9月13日、27日
クロックタワーコンサート	教職員をはじめ地域の方々に文化・芸術に触れていただく場として、時計台記念館で開催（京都市立芸術大学との大学間交流事業）	5月11日
未来フォーラム	様々な分野で活躍中の京都大学卒業生を講師に迎え、講演と意見交換を実施	7月4日、10月24日、12月（詳細未定）
高大連携事業（出前授業・オープン授業）	ポストドクターや大学院生の協力のもと、全国の高等学校を対象に行う公開授業	8月1日～11月28日
ジュニアキャンパス	中学生を対象にした公開授業	9月20日、21日
京大ウィークス	全国各地に展開する本学の教育研究施設における公開講座、講演会、施設公開等を一定期間に集中して実施する事業	10月11日～11月8日

■ 利用案内

● 白浜水族館【和歌山県西牟婁郡白浜町】	
開館日	年中無休 9:00～17:00（入館は16:30まで）
観覧料	高校生以上 600円(550円) 小・中学生 200円(150円)
URL	http://www.seto.kyoto-u.ac.jp/aquarium/
● 総合博物館【京都市左京区吉田本町】	
開館日	水～日曜日 9:30～16:30（入館は16:00まで） ※年末年始(12/28～1/4)、創立記念日(6/18) および8月第3週の水曜日は休館
観覧料	一般 400円(300円) 高校・大学生 300円(200円) 小・中学生 200円(100円)
URL	http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/

*観覧料のうち、()は団体観覧料(20人以上の場合)

■ 京大ウィークス2013の様子



白浜海象観測所 観測船を使った海象観測の実体験の様子

なさまに本学の研究活動に身近に触れていただけるよう、さまざまな機会を設けています。

公開授業・公開講座URL

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education/open/open>

名称	概要	26年度開催時期
地域講演会	本学の研究等の一端を広く全国に紹介することを目的とした講演会	11月29日、3月14日
京都賞高校フォーラム	公益財団法人福盛財団との共催により実施する青少年育成プログラム	11月（詳細未定）
京あるさ in 東京 特別講座	京都市が取り組む京都創成事業に協賛し、京都ならではの“知”を深める特別講座を担当	2月（詳細未定）
東京で学ぶ 京大の知	東京地区において本学の研究成果を発信することを目的とする連続講演会	年間4シリーズ
Kyoto University Academic Talk	地域ラジオ局（エフエム京都）の協力により、教員が自己の研究についてわかりやすく魅力的に紹介する放送	毎週水曜日（年末年始、祝日、創立記念日除く）
京都大学オープンコースウェア(OCW)	京都大学で講義に利用している教材をWeb上で公開（ http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja ）	通年

卒業生のみなさまへ

●京都大学同窓会

京都大学同窓会は、本学の部局にある同窓会および国内外の地域同窓会、そして学生サークルの同窓会を緩やかにとりまとめる連合組織です。

平成25年11月に、第8回京都大学ホームカミングデイを開催し、延べ2,700名の同窓生、学生、教職員および一般市民の参加がありました。第9回京都大学ホームカミングデイについては、平成26年11月1日(土)に開催予定です。



第8回京都大学ホームカミングデイの様子

また、新たに国内では、仙台くれない会および京都大学技術士会の2組織が、海外では、メキシコ京都大学同窓会(えー京)の1組織が京都大学同窓会に加入し、同窓生相互の交流や同窓生と本学との連携が今後ますます深まることが期待されます。

京都大学同窓会ホームページURL

<http://hp.alumni.kyoto-u.ac.jp/>



仙台くれない会の設立総会の様子

●京都大学東京フォーラム

本学の個性豊かな研究者が、その成果を首都圏にて発信する場として京都大学東京フォーラムを実施しています。

平成25年10月に開催した第8回京都大学東京フォーラムでは、「京都学派の探検-フィールド研究の伝統-」と題し、松沢哲郎 霊長類研究所教授と山極壽一 理学研究科教授の講演と松本紘 総長を交えた鼎談を行い、本学卒業生を中心とした国会議員、企業、官公庁の関係者等の来場者に対して、京都大学の今について情報発信しました。

京都大学東京フォーラムは、首都圏における本学の情報発信という目的にとどまらず、各界で活躍される本学関係者の結束を図り、本学と本学に縁のある関係者をつなぐ契機となっています。



京都大学東京フォーラム
「京都学派の探検-フィールド研究の伝統-」の様子

●卒業生とのネットワーク強化の推進

本学の卒業生に対する支援活動および連携協力を推進するため、卒業生名簿管理システム「京大アラムナイ」、「京都大学同窓会Facebook」を運用しています。

「京大アラムナイ」は、卒業生のみなさまに登録いただき、オンライン上で登録された卒業生の検索を可能とするものです。卒業生自身によりシステム上の公開項目の設定が可能で、メールアドレスを公表せずに登録されたほかの卒業生から連絡を受けることができます。

「京都大学同窓会Facebook」では、本学の情報を発信することを通して、卒業生相互、あるいは大学と卒業生間のコミュニケーションネットワークの強化を目指しています。

京大アラムナイURL

<http://www.alumni.kyoto-u.ac.jp/>

京都大学同窓会FacebookURL

<https://www.facebook.com/KyodaiAlumni>

教職員のみなさまへ

●研究関係経費

研究関係経費は、経常費用等約652億円(内訳は、運営費交付金等研究経費約223億円、受託研究等経費約255億円、科学研究費補助金等約137億円、補助金(研究関係)約37億円)および研究用資産支出額約135億円の合計で約787億円です。

教員1人当たりの研究関係経費 2,052万円

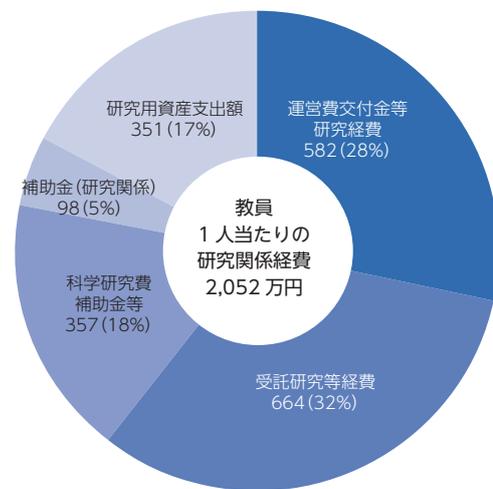
={経常費用等(65,272百万円)+
研究用資産支出額(13,471百万円)}÷教員数(3,838人)
※年度比較については33ページ参照

※教員数:常勤教員数(平成25年5月1日現在)

教員1人当たりに換算すると、研究関係経費は約2,052万円となり、前年度より約21万円減少しています。これは主に、平成24事業年度は、メディカルイノベーションセンター棟の新営等に伴い、建物や備品などの研究用資産支出額が多額になっていましたが、平成25事業年度は、上記施設の完成により、そうした要因分が減少したことによるものです。

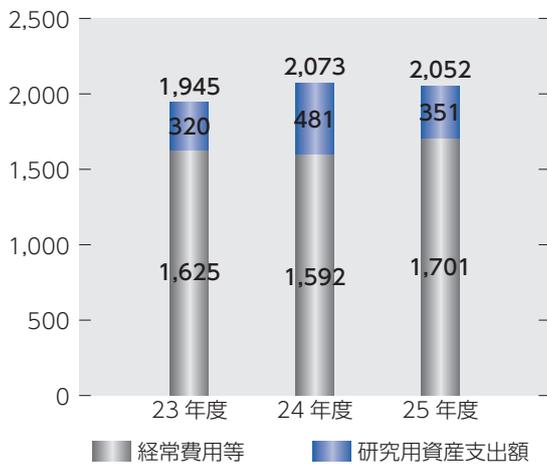
■教員1人当たりの研究関係経費のイメージ

(単位:万円)



■教員1人当たりの研究関係経費の推移

(単位:万円)



●人件費

本学の業務費のうち人件費は約626億円で、平成24事業年度に比べ、約24億円減少しています。報酬および給与等については、常勤人件費が約2.1億円増加、非常勤人件費が約0.9億円減少、退職手当が約24.7億円減少しています。

退職手当が大きく減少した要因は、教員の定年年齢を64歳から65歳に引き上げたことに伴って、退職者数自体が一時的に大きく減少したことによるものです。

これらの要因により、業務費のうち人件費が占める割合(人件費率)は43.7%で、平成24事業年度と比較し、2.9ポイント減少しています。

■人件費の内訳

(単位:百万円)

区分	23年度	24年度	25年度	差引
報酬および給与等	53,105	53,094	53,306	212
退職手当	7,934	7,819	7,732	△ 87
合計	4,530	4,071	1,598	△ 2,473
合計	65,569	64,984	62,636	△ 2,348

人件費比率

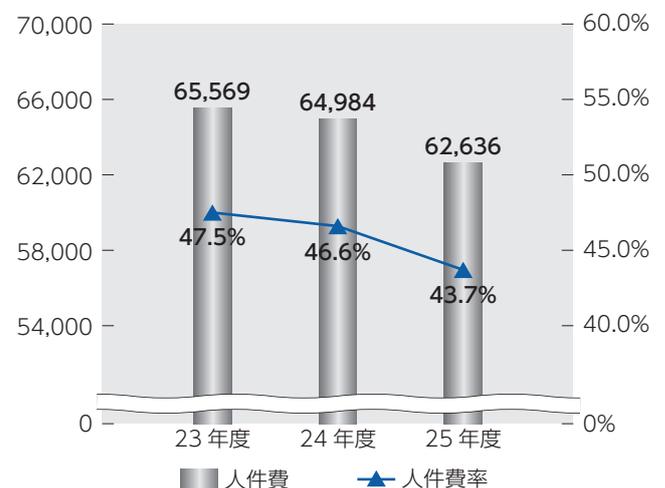
43.7%

=人件費(62,636百万円)÷業務費(143,306百万円)

※年度比較については32ページ参照

■人件費および人件費率の推移

(単位:百万円)

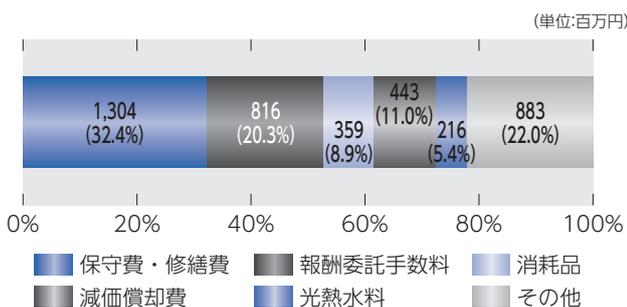


●一般管理費

平成25事業年度の一般管理費は約40億円で、平成24事業年度に比べ、保守費・修繕費や消耗品費等の削減により、約2億円減少しています。

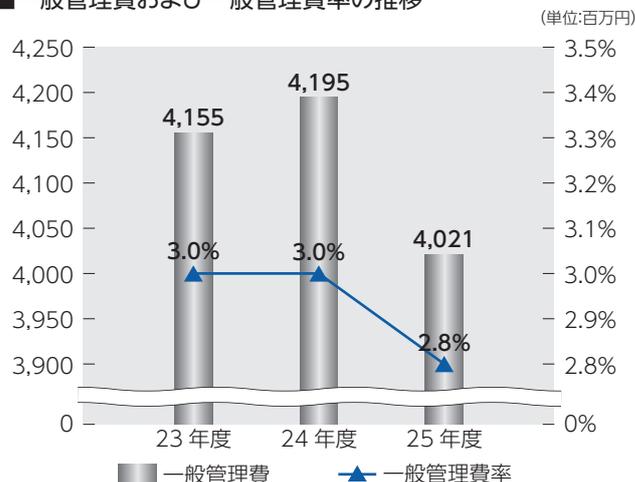


■一般管理費の内訳



また、業務費に対する一般管理費の比率は2.8%で、平成24事業年度に比べ0.2ポイント減少しています。これは、予算をより多く教育研究活動に充当できていることを意味します。

■一般管理費および一般管理費率の推移



●研究者への支援の取り組み

○総合的支援

KURA (京都大学学術研究支援室)は、高度な専門知識・経験を有する「リサーチ・アドミニストレーター(URA)」で構成され、研究者が研究活動に専念できる環境を整備するため、研究プロジェクトの企画・申請から、運営並びに社会還元(広報)に至るまでの支援活動を行っています。

KURA (京都大学学術研究支援室)作成の
科研費申請書(研究計画調書)作成の
ポイントについて記述した教科書



KURA (京都大学学術研究支援室) URL

<http://www.kura.kyoto-u.ac.jp/>

○研究費等の支援

若手研究者に対しては、優秀な若手研究者を特定准教授・助教として採用し、最長5年間、自由な研究環境を与え自身の研究に没頭させることにより、次世代を担う先見的な研究者を養成する京都大学次世代研究者育成支援事業「白眉プロジェクト」や「若手研究者スタートアップ経費」、「若手研究者ステップアップ経費」といった研究費の支援を行っています。

また、女性研究者に対しては、女性研究者支援センターによる「保育園入園待機乳児保育室」や「病児保育室」等の環境支援を行うとともに、優れた研究成果を上げた女性研究者に対する顕彰制度である「たちばな賞」の授与等を実施しています。

●事務改革への取り組み

○共通事務部の設置

「教育・研究・医療等を支える事務組織の機能等の強化・職員の質の向上」を図るため、かねてより検討を進めてきた部局事務機能の一部集約化による「共通事務部」(本部構内(文系)、本部構内(理系)、吉田南構内、医学・病院構内、南西地区、北部構内、宇治地区、桂地区の8つ)の設置および本格稼働を実現しました。

引き続き、全学的な事務の簡素合理化・業務量削減への取組を継続・強化していきますので、教職員一人ひとりの積極的なご協力をお願いします。

平成25年度に実現した主な事務改善事項

- 採用時の届出等処理の完全電子化
- 外部資金の公募の周知方法の統一
- 施設管理・財産管理業務の集約・効率化
- 会計職務権限の見直しによる会計業務の合理化・効率化
- 固定資産管理業務に係る効率化・簡素化
- 入学時に学生等から取得する各種情報の一元処理化
- 授業料減免、奨学金等の申請業務の一元化
- 図書受入業務の明確化・簡素化